

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 鯖江市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 生活交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名・運行(航)区間、整備内容を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、龍島航路に係る確保維持事業において龍島航路構造改善補助(国庫補助)の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善は、事業者の取組みだけでなく、地域の取組みについて広範に。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
つつじ峠	つつじバス (R3.10~R4.3) 一循環線、神明線、片上・北中山線、立待線、河和田線、通学便市内高校ルート、通学便片上・北中山ルート、通学便立待ルート (R4.4~R4.9) 一循環線、神明線、片上・中河線、立待線、河和田線	【前回の評価内容】 (評価できる取組み) ①地域公共交通計画策定に際して、地域の意見を踏まえ、地域公共交通網の再構築として「豊かさと安心のある暮らしを支える交通環境」と4つの目標を掲げ、各種事業を盛り込み計画策定に繋げられたことについて評価します。 ②市内交通拠点において、コミュニティバスの運行事業の安定化に向けて、新たに大型モニターを活用した広告制度を開始されたことについて評価します。 ③鯖江市地域公共交通活性化協議会の協議内容・結果をホームページに掲載され情報共有に努められていることについて評価します。	A ・ B ・ C 評価	A ・ B ・ C 評価	
越前観光線	つつじバス (R3.10~R4.3) 一循環線、幹線、鯖江南・新横江線、豊線、河和田線、通学便市内高校ルート、通学便豊ルート、通学便中河・北中山ルート、通学便河和田ルート (R4.4~R4.9) 一循環線、鯖江南・新横江線、豊線	(期待する取組み) ④地域公共交通計画等に沿って各種事業を着実に進められるとともに、事業の進捗管理についても併せて取り組まれるようお願いいたします。 ⑤地域公共交通計画の目標、実施内容、実施結果に関する評価・分析を定期的にを行うとともに、必要に応じた見直しを進められることを期待します。 ⑥令和4年4月に予定される、市内交通の見直しに際して、利用者の混乱を招かないよう、運行ダイヤ等の周知徹底をお願いします。 ⑦市内を運行する地域間幹線系統のうち輸送量が低迷している系統について、現状や問題意識を県・関係市町村・関係事業者と共有すると共に、当該系統の必要性に応じ、利用促進や系統維持に向け県や関係者と連携して取組を実施されるよう期待します。	B	○実績 [R3] R2.10~R3.9 目標 230,900人 実績 107,021人  R4.4.1~ダイヤ改正実施 [R4] R4.4~R4.9(※R3.12)に地域公共交通計画、R4.4.1にダイヤ改正を実施したことによる) 目標 74,600人(149,200人) 実績 54,915人 [R5] R4.10~R5.9 目標 154,400人 実績 人 [R6] R5.10~R6.9 目標 159,000人 実績 人 [R7] R6.10~R7.9 目標 164,800人 実績 人 [R8] R7.10~R8.9 目標 170,000人 実績 人  ※一便あたりの利用者数推移 ○〇線 [R3]→[R4]→[R5]→[R6]→[R7]→[R8] 循環線 [5.9]→[6.9]→[ ]→[ ]→[ ]→[ ] 鯖江南・新横江線 [1.26]→[1.55]→[ ]→[ ]→[ ] 神明線 [4.13]→[3.24]→[ ]→[ ]→[ ]→[ ] 片上・中河線 [3.57]→[2.20]→[ ]→[ ]→[ ] 立待線 [4.12]→[3.70]→[ ]→[ ]→[ ] 吉川線 [5.02]→[4.02]→[ ]→[ ]→[ ] 豊線 [4.45]→[5.00]→[ ]→[ ]→[ ] 北中山・中河線 [1.18]→[1.39]→[ ]→[ ]→[ ] 河和田線 [5.21]→[4.24]→[ ]→[ ]→[ ] 全路線 [4.38]→[4.32]→[ ]→[ ]→[ ]	利用者数の目標については、現状に見合った数値と大きく離れてしまっていたため、R3.12に策定を行った地域公共交通計画内にて、R6年度の利用者目標を170,000人で再設定を行った。  今後の事業内容については、新ダイヤでの運行を約1年間終えることとなることから、つつじバス利用者へのアンケート調査を行うことで新ダイヤに対する利用者の生の意見を聞き出し、更なる利便性向上出来る点がないかを探る。また既出の点については、その点についても対応を検討できないかを活性化協議会内で協議を行う。R6年春には北陸新幹線敦賀開業に伴い、JR鯖江駅は並行在来線に移るため、電車の乗継ぎについても可能な限り再設定できるように調整を行う。
鯖江交通線	つつじバス (R3.10~R4.3) 一循環線、吉川線、通学便吉川ルート (R4.4~R4.9) 一吉川線、立待線	【事業の実施内容】 ④事業の実施スケジュールに沿って、事業を進めている。特につつじバス車両の更新については、R4年度中に中型バス1台の更新、R5年度以降については小型バスを順次更新していく予定である。あわせて、車両の更新にあわせて車両デザインのマイナーチェンジを行うことで話題性の確保を行い、つつじバスの愛着醸成を図る。また、つつじバス1日フリー乗車券の導入、SNSを利用した情報発信もR5年度中に順次開始していく予定で進めている。 ⑤当協議会において随時報告を行うとともに、必要に応じて委員の方々の意見を聴取しながら、必要に応じて見直しも検討していく。	B	B	あわせて、新しいSNSツールを使ったバス運行情報の発信を開始、新しいデザインのバス車両の更新に伴う話題性の確保、1日フリー乗車券等の新たな割引制度を設けるなど、新たな施策を実施することで新規ユーザーの取り込みを図る。
鯖江高遠観光線	つつじバス (R3.10~R4.3) 一循環線、幹線、鯖江南・新横江線、片上・北中山線、立待線、中河・北中山線、河和田線、通学便中河・北中山ルート、通学便河和田ルート (R4.4~R4.9) 一循環線、神明線、片上・中河線、北中山・中河線、河和田線	⑥路線図(時刻表データ)が完成した段階で、全路線図およびそれ以外の路線においてどの部分が改正になったのかを具体的に明示して市のHPに掲載した。市の広報の見聞きページ特集にて、つつじバスのダイヤ改正についての掲載を実施した。また、広報と合わせて携帯型時刻表を積み込み全世界に新ダイヤの時刻表を配布した。市内の主要施設(商業施設・公民館・温浴施設・駅等)にも時刻表をあらかじめ設置するとともに、R4年度版の時刻表には巻末に兼ねて早見表を掲載することで、新しいダイヤへの変更による混乱を最小限に抑えるように努めた。あわせて新ダイヤの定着が早期に図られるように市内各町内にある高齢者サロンへの出前講座を継続的に実施し、どの部分がダイヤ改正で変わったかを資料を用いて丁寧に説明している。 ⑦県主導の「生産性向上」に向けたWGに参加、各系統の実状を把握するとともに路線沿線市町の利用者促進策について共有を行った。コミュニティバスのダイヤ改正を行う際、可能な限り乗継ぎができるようにダイヤの調整の実施を行った。あわせて、県が実施しているおでかけ応援事業(フリーきっぷ半額キャンペーン)等お得な制度について、市のHPへの掲載、役所内にチラシの設置を行うことで利用者への周知を図った。	B	B	大きなダイヤ改正であったことから、既存利用者の混乱を起さないよう、また新規利用者獲得に向けて、各地区の高齢者サロンにて変更点についてひとつひとつ丁寧に説明することを意識して新ダイヤの早期定着を図っているところである。

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 4年12月 2日

協議会名:	鯖江市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	生活交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>鯖江市は、中心部をJR北陸線と福井鉄道福武線の2社の鉄道が縦断していることにより公共交通の利便性が確保されているが、鯖江市西部は日野川により、鯖江市東部は東部に長くのびる地理により中心部へのアクセスが制限されている。高齢化による運転免許返納や市中心部への医療施設・商業施設の集中により、東西の集落と市中心部を結ぶ公共交通による移動手段はますます重要となってきた。今後も市中心部への拠点集中が見込まれることから、鯖江市は「豊かさや安心のある暮らしを支える交通環境」を地域公共交通の将来像として、高齢者だけでなく市民全体が公共交通による利便性を享受できるよう公共交通網の整備を図る必要があると感じている。新しい利用者層の開拓による積極的な利用促進を行うとともに、既存の利用者ニーズに対応により、将来像を形成出来るようにする。</p>